

板紙・段ボール新聞

日刊板紙段ボール新聞社
東京都文京区湯島4-6-11 A-509
TEL 03-5689-0121 FAX 03-5689-0120
http://www.itadan.com
Email: info@itadan.com
購読料 年間 27,000円（価格は税抜）

根付いた風土、更に磨きを

●次の5代目社長を約束されています。自身、どう受け止めていますか
正直な話、小さな時から王道的な教育を受け、将来は社長になれ」とを兼ねて海外の長期据付育ったタイプではありませんが、社内システム部門に所属していません。昔からの立場を明確に自覚していた訳でも無いですが、オーナー家の人間だから地位が約束されている、と言う感覚も持っています。性や、ISOWAが掲げる格も前面に立って旗を振るタイプではありません。敢えて言えば自分らしい社長、自分らしいリーダーシップが取れるようになれば良いと思っています。

●この考えはISOWAの目指す社風ともマッチしています。あくまでも社員が主役でありそれを支える、こんなリーダーシップを取りながら全社員と一緒に「幸せ」を考えていきたいです。1人で考え込めば不安になる事も、皆で考えれば前向きな議論になり、それがチャンスになると思います。今ある良い社風を更に育てて行きたいです。

●入社して何年目になりましたか。経験した仕事はありますか。経歴した仕事は、6年目になります。最初の1年間は製販ほぼ全ての部署を回りました。国内外の営業マンに同行しお客様との接点も作ることができました。通訳

●「社風」とは、どう捉えていますか。必要なのは自分でも実行するものですが、一社員でも社長と同じ働き方をしていると思えば、大きな力になります。例えは必要なのは自分でも実行するものですが、一社員でも社長と同じ働き方をしていると思えば、大きな力になります。例えは必要なのは自分でも実行するものですが、一社員でも社長と同じ働き方をしていると思えば、大きな力になります。

ISOWA、次の100年へ



磯輪光取締役のインタビュー

●ISOWAが100周年を迎えた。1920年10月に初代磯輪源一氏が創業、2代目英一氏は会社の土台を作り、現社長の英之氏は風土改革を成し遂げた。貼合から製箱まで段ボール機械専門のトップメーカーとして、長きに渡り段ボール産業を支えているが、同社は既に次の100年を見据えている。その羅針盤は5代目となる磯輪光取締役だ。カリスマ性ある歴代経営者を間近で見て、何を感ず、何を学び、会社をどう動かしていくのか。終息の見えないコロナ、働き方改革も迫られる多難な時代、『根付いた良い風土、更に磨きをかけたい』と強調する若きリーダーに話を聞いた。

●長所をあげるとすれば、100年企業として蓄積してきた経験・ノウハウは、新興企業が一朝一夕で身に付けられるものではない。『お客様に気持ちよくサービスを提供する』という思いが、この100年を支えてきた。『お客様に気持ちよくサービスを提供する』という思いが、この100年を支えてきた。『お客様に気持ちよくサービスを提供する』という思いが、この100年を支えてきた。

●100周年を迎える数年前から200年の計画を掲げています。100年を満了する事無く200年を目指そうと言ったので、実行して行くのは自分達の世代です。その中で自分の手でやりたいことは、何と云っても世界一の社風づくりです。

●風土改革を進めてきた経営手法、継承したいが、「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●ISOWAの開発コンセプトは、「人にやさしく、キカイにやさしい」。単純に、速い、性能が良い、と有りがちです。ゼロから始めた現社長と、ある程度進んだ現在では環境が違いますが、世界一の社風を作り、それに共感していただくには、仲間が多く増えたいです。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。

●「世界一の社風を目指す」会社の理念に共感できたことも、それと同じくらい大きな決め手です。世界一と呼ばれるものには、何んでも常識からかけ離れた特異性を持っています。組織でも同じで常識にとらわれない組織作りが必要だと思っています。